

年頭の

ごあいさつ

2023年 新年のご挨拶



一般社団法人日本病院薬剤師会
会長

武田 泰生 Yasuo TAKEDA

新年明けましておめでとうございます。昨年の6月に日本病院薬剤師会（以下、日病薬）会長に就任して、初めての新年を迎えるにあたり一言ご挨拶を申し上げます。会員の皆様におかれましては健やかに新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。また、日頃から日病薬並びに都道府県病院薬剤師会の活動にご理解とご支援を賜り厚く御礼を申し上げます。2020年の初頭に端を発した新型コロナウイルス感染症は、この3年の間、拡大と沈静を繰り返しながら4回目の冬を迎えております。会員の皆様にはくれぐれもご留意されますようお願い申し上げます。

さて、日本の医療は大きく変わろうとしています。近年の少子高齢化に伴う様々な問題に対応すべく、現在、社会保障・税一体改革が急ピッチで進められています。そのなかでも医療・介護の分野では、「病院機能の分化と連携」、「地域包括ケアシステムの構築」を両輪として、地域の特性に合わせた地域医療構想が2025年の完成に向けて進められています。ここ数回の診療報酬改定において、病院薬剤師には更なる病棟薬剤業務の充実と外来診療や周術期医療への参画、保険薬局薬剤師との連携、そしてタスクシフト・シェアへの対応など、多方面にわたる業務拡大を期待されたところですが。これらの期待に応えるには、拡大する業務をしっかりと実践する資質の向上が必要であると考えます。

一昨年から開催されている薬剤師の養成及び資質向上等に関する検討会では、薬剤師需給や資質向上、そして薬剤師のあるべき姿について検討されました。需給については薬剤師過剰になると推計された一方で、業種間偏在や地域偏在等により病院薬剤師の不足状況が明らかとなりました。私は会長就任後、各病院団体を訪問し、病院薬剤師の現状をご説明し、対応策について協議をお願いしてまいりました。その後、日本病院団体協議会代表者会議において、病院薬剤師確保のためのワーキンググループの設置が決定し、日病薬とともに確保策に向けた検討を始めることとなりました。シームレスな薬物治療管理を実践するためには、各医療機関が各々の機能を適切に果たすに見合う薬剤師数を確保し、充実した病棟薬剤業務を展開してこそ、病院間連携、病院・薬局間連携が機能すると考えております。日病薬会員の皆様には、シームレスな薬物治療管理体制の構築に向けて、地方行政や薬剤師会等とともに取組を進めていただきますようお願い申し上げます。

2023年、新しい年を迎えました。日病薬は病棟薬剤業務のさらなる推進と薬剤師職能向上のための取組を継続していくとともに、薬剤師不足や地域偏在・病床機能別偏在の問題についても全力で取り組んでまいります。コロナ禍への対応、タスクシフト・シェアへの積極的な取組、地域医療へのさらなる貢献等々、課題は山積しておりますが、新しい一年が会員の皆様にとって素晴らしい一年となりますよう、ますますのご健勝とご活躍を祈念申し上げまして、新年のご挨拶とさせていただきます。本年もどうぞ宜しくお願い申し上げます。